

ながせひでき 永瀬秀樹の歩く眼

第15号 映像資源

デジタルアーカイブについて

デジタルアーカイブとは、遺跡、文化財などの歴史的遺産はじめ、自然環境など、有形・無形のあらゆる文化遺産を、デジタル処理して電子媒体で映像・文書にし、それらを分類・整理して、記録・保存し、データベースを作り上げることです。

川口市でも独自のデジタルアーカイブ（収蔵行為をする施設や機関）を進めています。

最先端技術をさらに加速させる。永瀬秀樹の取り組みです。

デジタルアーカイブは「知のインフラ整備」と言われて、インターネット主体の情報化時代に不可欠なものです。そして川口には東洋一のNHKデジタルアーカイブもあります。すでにデジタル土壌がある川口が、独自のアーカイブを持つことは時代の必然です。いち早く最先端技術を獲得する都市が、都市間競争に勝利します。



川口市議会で、私は4度目の一般質問をさせていただきました。今号は6回シリーズの最終回です。

永瀬秀樹質問の狙い

●デジタルアーカイブは、平成22年度の調査によれば、全国1,243館の登録博物館と博物館相当施設で223館が導入しています。設置者別の導入状況は市町村立が14.7%（555館中78館）、都道府県立が43.9%（155館中68館）、国立は62.9%（27館中17館）と様々で、デジタルデータの管理体制や情報化の進展具合も一様ではありません。

●電子媒体は、経年劣化がなく永久的に保存することが可能である上、インターネットで世界に公開できるため、「知のインフラ」と呼ばれ、導入に向けて全国で取り組みが進んでいます。



川口には東洋一のNHKアーカイブもあり、デジタルアーカイブの先進都市になる土壌がすでにある。

●デジタルアーカイブの意義は、映像遺産の保全、文化遺産の記録、地域産業の記録などに寄与するものです。期待される効果は、資料の破損・劣化防止、新しい表現の実現です。

さらにネット社会では、時間的、地理的制約を超えた資料提供や、様々な角度からの資料検索も可能です。「死蔵」ではなく「活かした資料」になるわけです。

●川口市でも、文化財資料だけでなく、市史編纂などの事業を通じて、多くの貴重史料を収集してきています。

●多くの所蔵者の理解のもとに収集された「市民共通の財産」が資料です。これらを次の時代へと大切に引き渡すために、また、多くの市民はじめ広く世に公開し利用していただくためにも、デジタルアーカイブの設置は、市に課せら

れた大きな使命ではないでしょうか。

1 歴史資料の収集・整理・保存・活用について

永瀬秀樹の質問概要

●市民やまちの歴史を伝える古文書や記録、写真など、市民の共有財産である歴史資料は、散逸や消滅を防ぎ、次の世代に継承する必要があります。

●現在の収集・保管点数は何点か。資料の収集・整理、保存・活用はどのように図られているか。古文書の解読作業はどの程度進んでいるか。今後、解読を進める計画は。などをお聞きしました。

川口市の答弁

●8万7千167点の古文書類を専門の保存箱に保管し、周期的に防虫、防カビのための燻蒸を行うなど、適切に資料

管理を行っています。

●活用については、郷土資料館などで行われる企画展示会での展示や、印刷物への掲載により、市民に広く公開。埼玉県や大学などに対して、資料貸し出しや提供も行っております。

●解説作業については、所蔵する資料87,167点の内、解説を対象とする史料は4,665点であり、そのうちの2,170点、46%を解説しています。

●現在は「御用留(ごようどめ)」の解説を進めており、その後は宿場(しゅくば)関係の史料をはじめ、年貢(ねんぐ)に関する史料などの解説を進めたいと考えています。と、**答弁を頂きました。**

2 デジタルアーカイブの設置について

永瀬秀樹の質問概要

●川口市も、以下のような観点から、デジタルアーカイブの設置を進めるべきと考えます。

1. **市の歴史、文化遺産を、市民や国民に、広範・迅速・簡易に伝える。**
2. **貴重な文化遺産の破損、劣化防止を図る。**
3. **小・中学校の地域学習でパソコン教材として活用することで、文化財見学、体験教室に、相乗効果で学習効果をもたらす。**
4. **公民館や公共施設に提供し、市民の意欲的な生涯学習にも新たな魅力づけをする。**
5. **ICTの活用により、市民参加の双方向**

性を持たせ、地域文化の保存だけでなく、川口市の積極的な魅力発信にもつなげる。

6. **設置にあたり、土地や建物を必要とせず、多額な費用を要しない。**
7. **空間的制約を受けないため、歴史遺産、自然環境、有形・無形の文化遺産などあらゆる対象を記録、保存、公開できる。**

●文化財は、人間の営みによって生み出されたもの。どのまちにも必ず、気候風土や地理的条件など、様々な要因からそのまちが築かれてきた歴史があります。その「歩みの証」としての数々の歴史資料、文化遺産があります。それらは文化の潮として、今も脈々と受け継がれ、育まれています。私たちはそれを知り、守り、広め、伝えなければなりません。

●これまでの歴史文化遺産の収集・整理・保存の取り組みに、今後はデジタルアーカイブの設置による先進的な情報伝達手段の活用を加えると、川口市の文化政策がさらに広がります。

●戦略的な市の未来のための取り組みとして、デジタルアーカイブの設置を進めるよう、**提案しました。**

川口市の答弁

●デジタルアーカイブ化は、その重要性から、文化財行政の近年の流れです。川口市でも、現在、ホームページ上で市指定文化財の内容を紹介し、市民の方が閲覧できるよう、平成26年度の公開に向け準備を進めております。

●今回の永瀬議員の提案も踏まえ、今後も、市の貴重な文化財について、多くの市民が関心を持ち、様々な活用できるよう、デジタルアーカイブ化を進め、情報の発信に鋭意努めて参ります。と答弁を頂きました。



小中学校でのパソコン教材として、アーカイブ化の有益性は高い。



川口を全世界にプレゼンテーションするために、アーカイブ化は欠かせない。

6号分をまとめて



川口市議会議員
永瀬秀樹

■昨年、川口市はめでたく市政施行80周年を迎えました。これからも時代は移り変わり、千変万化していくでしょう。

■私たちは、これまでの経験から得た教訓を生かし、時代の変化を見極め、将来を予見しつつ、それに対応する施策を実行していくことで、市の発展に努めていかなくはなりません。

■そのために、どういう一般質問をし、どういう答弁を導くかは、市議会議員にとってもっとも大事な未来戦略です。

■今回は、

- 東日本大震災から得た教訓
 - 組織最適化に向けた行革の推進
 - 民間活力の大胆な導入
 - 長期暫定状態からの脱却
 - 川口市史の普及と成果の活用
 - 市の文化政策におけるICTの活用
- など、川口市が直面している社会経済情勢の変化を的確にとらえ、市政がしなやかにスピーディーに適應することを望み、様々な質問と提案をいたしました。「防災・医療」「行政改革」「都市経営」「資産活用」「歴史文化」「ネット社会への対応」、これらに向かって川口市を変えていきたいと思っています。そしてもちろん、自らも進化していきたいと思っています。